

第3学年「図画工作」学習指導案

授業者 宮川 紗織

2月20日（金） 2階アトリエ 9:00～9:40 （話し合い11:00～11:45）

1 題材名 あらわれていく

2 題材について

3年生の子どもたちは1学期の初めにお花紙の触りごこちや軽さ、透け感などの質感を感じ、裂く、破く、捻る、重ねる、貼る等様々な関わり方をし、全身でお花紙を味わった。また、絵の具を使った授業では、紙の上で色が滲んで広がっていく様子や色と色が混ざり合う様子のおもしろさを感じたり、線の動きや線と線を重ねる表現を楽しんだりした。1学期の最後には、創造活動の時間と関連させて、文京区にあったらいいと思う建物の模型を家庭から持ち寄った透明な容器（ペットボトルや卵パック、空の容器など）で作り、最後に作品を並べてライトアップをして鑑賞をした。

上述のように様々な活動をしてきた3年生だが、2学期に入ってから何かが通る装置や仕組みを作りたいという思いを持っている子どもたちが多いことが分かり、「〇〇が通る道をつくろう」という授業を行った。それまで一人ひとりで制作する場面が多かったが、子どもたちから「友達と一緒にやっていい?」「四人で作りたい」と声があがった。そこで作る際は、一人でも友達と一緒にでもどちらでもいいこととした。また、子どもたち自身の試行錯誤や思いを残すために言葉や絵でふり返りを書いた。教師が見落としていた、子どもたちの思いや考え、直面した困難さ、それを解決するために取った行動がふり返りから明らかになってきた。子どもたちの言葉や姿から、それぞれの学びが途切れないよう題材を考え授業を行ってきた。（詳しくは本要項 p.79～81 に記載）

本題材では、ミラーペーパーを使用する活動を行う。12月に実施した「おったり、切り込みを入れたりして、つくってみよう」では、接着剤は使わず教師が予め同じ幅にカットした、長さの異なる白い厚紙のみを用いる設定にして行った。今回も接着剤は使わないという制限を設けるが、切り込みのみではなく切り離すことも可とする。最初の出会いの場面では、白い厚紙と同じ大きさにカットしたミラーペーパーを比較し、共通点や差異について対話も交えながら共有していく。その後、カットしていないミラーペーパーを一人1枚配布し、1枚の紙をどのように使うかを考える。ミラーペーパーを使うことで、必然的に裏表が生まれどちらの面を見せるかによっても表現が変わってくる。ミラーの反射、光の輝きや映り込みに注目する子がいたり、紙を切る行為に集中する子がいたり、様々な姿が想定される。

本時では、前時までに立ち上がってきた作品を再度見てみる。その後、新しいミラーペーパーを一人1枚配布し、この作品と組み合わせてみたらおもしろくなりそうだと感じた作品、一緒にやってみたいと思った友達とさらに作品を作り上げていく。自分の思いと他者の思いや行為が衝突し葛藤することもあるだろう。そこを乗り越えおもしろさや楽しさを見出している子どもの姿を捉えたい。

3 学習指導計画（3時間目／全4時間）

第1次 「おったり、切り込みを入れたりして、つくってみよう」を振り返りながら、ミラーペーパーでは何ができるか試す … 1時間

第2次 組み合わせてみたいと思った作品同士で組み合わせてみる … 本時2／2時間

第3次 2・3時間目の違いや何故その作品を組み合わせてみたのか等について聴き合う … 1時間

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

- ・「ひと・もの・こと」と関わり合い、一人では生まれなかった表現を楽しむことができる。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 自分や友達の作品を見て、次にどうしたいか考える。	・何に対しておもしろくなりそう、組み合わせてみたいと思ったか、子どもたちの考えを聞く。
2. 友達と話し合いながら、作品を作る。	・新しいミラーペーパーを一人1枚配布する。 ・カッター専用の場所を設ける。 ・活動する際の人数制限はしない。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- 子どもたちにどのような「ひと・もの・こと」との関わり合いが生まれていたか。
- 場・空間の設定は適切であったか。